

研究・調査報告書

報告書番号	担当
26	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking cessation and its effect on esophageal and head and neck cancers: a pooled analysis. 断酒による食道癌および頭頸部癌の危険度減少：複数の研究の集積による解析	
執筆者	
Rehm J, Patra J, Popova S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2007 Sep 1;121(5):1132-7.	
キーワード	
断酒、食道癌、頭頸部癌	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>断酒と食道癌および頭頸部癌の危険度減少との関連についての既存の疫学研究で、エビデンスとしての強さを複数の研究を集積した解析によって評価すること。</p> <p>方法：</p> <p>複数の文献検索データベースを用いて、1966～2006年の関連する疫学研究を収集した。13の個別の研究が検索により見つかり、5000例以上の症例数であった。断酒後の年数と癌の危険度との関連を回帰分析により検討した。</p> <p>結果：</p> <p>食道癌については、断酒後2年間で有意に危険度が上昇し（オッズ比および95%信頼区間＝2.50、2.23-2.80）、その後、急速に低下し、時間経過とともに有意な危険度減少となった（断酒後15年のオッズ比および95%信頼区間＝0.37、0.33-0.41）。食道癌ほど強くはないものの、頭頸部癌についても断酒後の有意な危険度上昇が10年間に渡って観察された（オッズ比および95%信頼区間＝1.26、1.18-1.35）。その後の危険度減少は断酒後10年以上経過しないとみられなかった（断酒後10～16年のオッズ比および95%信頼区間＝0.67、0.63-0.73）。断酒後20年以上が経過すると、これらの危険度は非飲酒者と同程度であった。</p> <p>まとめ：</p> <p>この研究は食道癌および頭頸部癌に対する断酒の重要な役割を示していると考えられる。</p>	